

211  
4  
270

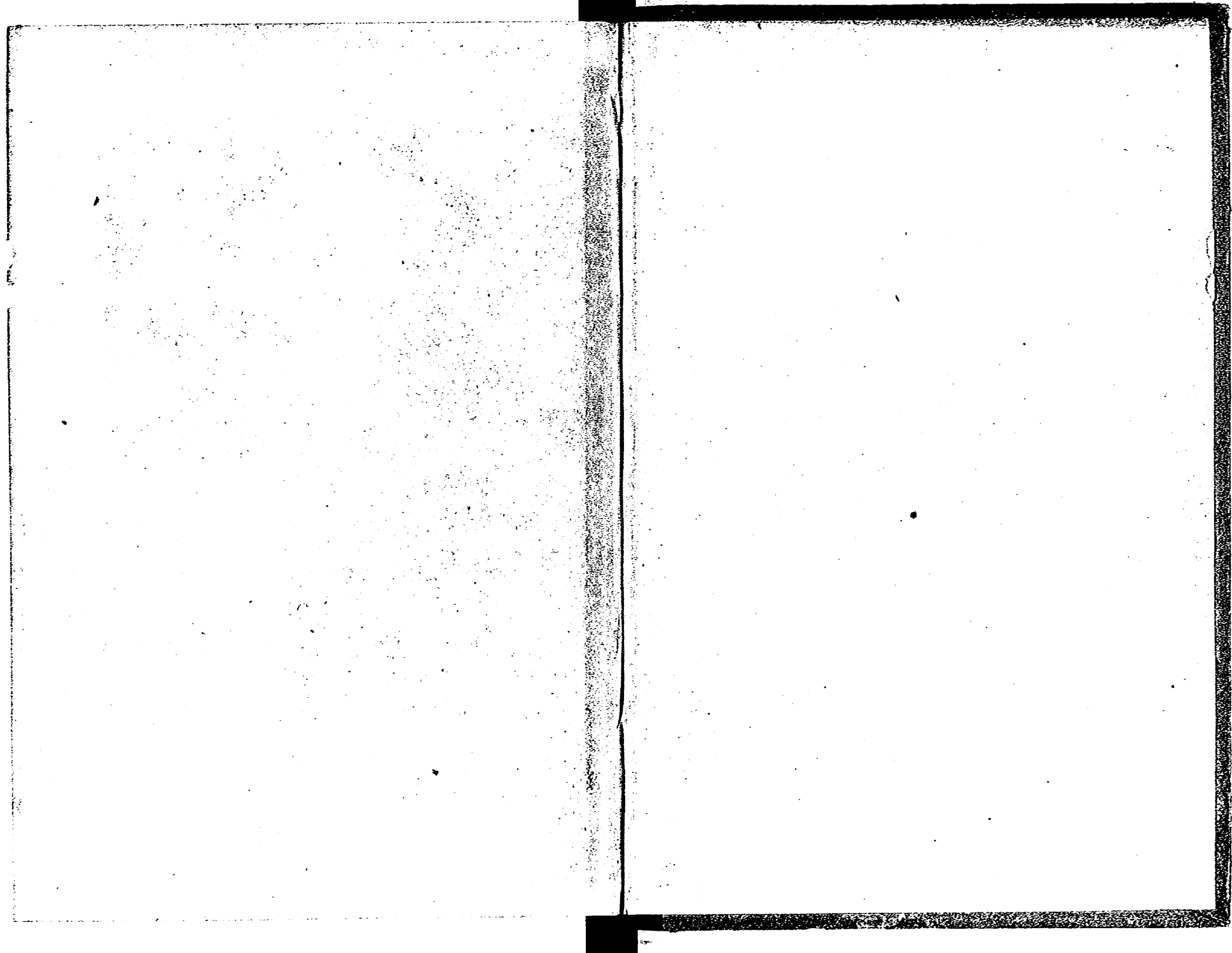
高等小學作文教授書 四

K12182  
127  
4

K121.82

127

4



國光社編纂

高等小學作文教授書

東京

國光社



高等  
小學  
作文教授書四

目次

第一學期

- 一 春日野外散步の記
- 二 農談會傍聽に誘ふ文
- 三 右返書
- 四 道義の經典
- 五 國名の由來
- 六 改印届の認方
- 七 徴兵適齡届の認方
- 八 勸業博覽會

(讀本七第一、二課)

(讀本七第三課)

(讀本七第八課)

九 建築物

(讀本七第九課)

- 一〇 田植に手傳を頼む文
- 一一 茶摘に手傳を頼む文
- 一二 日光陽明門
- 一三 中禪寺湖
- 一四 床上げに人を招く文
- 一五 右返書
- 一六 佛蘭西
- 一七 伊太利
- 一八 病氣見舞の文
- 一九 右返書
- 二〇 水素

(讀本七第十二課及外國地理)

(同 前)

(理科書四第二課)

二一 酸素

(理科四第三課)

- 二二 旅行先の兄に送る文
- 二三 右返書
- 二四 和蘭
- 二五 瑞西

(讀本七第十七課外國地理)

(同 前)

第二學期

- 一 會社
- 二 保險
- 三 得意引合せの文
- 四 右返書
- 五 熱

(讀本七第十九課)

(讀本七第二十課)

(理科書四第十四課)

應用題 光

六 電氣

(理科書四第十九課)

應用題 磁氣

七 盜難見舞の文

八 盜難屑の認方

九 燈臺

(讀本七第二十二課)

一〇 義捐金を贈る文

一一 大日本史

一二 楠正成

(修身書四第十課)

一三 入營を賀する文

一四 右返書

一五 愛國

一六 平田篤胤

(修身書四第十四課)

一七 古稀を祝する文

一八 右返書

一九 光陰を惜む説

二〇 雪を賞するの記

二一 歳暮祝の文

二二 右返書

二三 郵便

二四 電信

二五 小作證の認方

第三學期

一 郷黨の親

二 交友

- 三 不沙汰を謝する文
- 四 右返書
- 五 冷水浴
- 六 血液の循環
- 七 時候見舞の文
- 八 右返書
- 九 帝國議會
- 一〇 議員選舉
- 一一 死を吊ふ文
- 一二 家督相續届の認方
- 一三 日清戦争
- 一四 伊達政宗

- 一五 卒業後の目的を問はれて答ふる文
- 一六 地所賣渡證の認方
- 一七 開校を祝する文
- 一八 卒業式の答辭
- 一九 卒業を故郷に報する文
- 二〇 卒業後師に呈する文

高等小學作文教授書四



國光社編纂

(一) 春日野外散步の記

自作法

範文

余一日親友兩三輩を誘ひて、野外に散歩す。麥は、漸く伸びて、綠色深く、紫雲英は、紅色濃かに開き、菜花は、咲き亂れて、黄金色を呈す。眼の達する所、田圃相連り、或は青、或は紅、或は黄、恰花甍を



敷けるが如し。胡蝶は、花間に戯れ、雲雀は、中天に嚶り、風致、眞に愛すべし。小阜の綠草を筵として、清談數刻、積日の苦學を忘る。

### (三) 農談會傍廳に誘ふ文

謹啓承り候へば明日某處に於て農商務省技師某氏出張講話これあり候由我々農業家にとりては利益少なからざる事と存じ候間是非共傍聽致し度貴意如何に候や御誘ひ申し上げ候不宣

### (注意)

以下日用文は、皆、自作法に據る。なほ、第三卷にも注意せる如く、書簡文の首尾の語は、男女を區別して教授すべく、又、全體につきても、大抵は、男女通用すべき範文を示したれど、文題の如何によりては、多少、改易を要するところなきに非ず。斯

る所は、教授の際、婦女に適すべき語句に修正して、教授することを要す。

### (三) 右返書

復啓御手紙拜見仕り候御來諭の如く農事の改良は目下の急務にて他事と違ひ直接利害に關係致し候義に付愚弟共相率ゐる定刻より御件致すべく候餘は拜眉の上譲り申候再拜

### (四) 道義の經典

(讀本七第一二、課)

### 復文法

先ツ言語ニ修述セシメテ後文章ニ綴ラシム

### 範文

神武天皇の詔に宣はく。天神を祀りて、大孝を申おべしと、大孝とは、皇祖天神を祀りて、皇祖の御志に協はせらるゝを

いふなり。爾來 列聖皆、皇祖皇宗の遺訓を承けて、吾等臣民を撫育し給ひ、今上天皇陛下の、維新以來下し給へる諸の詔勅にも、必、皇祖皇宗の遺訓に由ると宣へり。我が君歴代の御志は、祖宗の御心を紹き給へるものにて、即、孝道に則らせ給ふといふべし。又、吾等臣民の、同心一體となり、忠義を以て、世々、神孫に奉事するも、亦わが祖先の志を繼げるものにて、等しく、孝道に則るものなり。そも、孝は、道の大本にて、上、至尊より、下、臣民に至るまで、一旨一貫、決して、二義あることなし。吾等臣民の祖先を尋れば、則、天神より出でしものにて、恰、繁茂せる枝葉も、一の幹より發生せるが如し。故に、吾等臣民の、天神を敬するは、君に忠なる所以にして、又、親に孝なる所以なり。この忠孝一致の大道は、我が國固有の道義にして、天地開闢の初より、世

世、事實となりて存在し、後代の明鑑として、史上に輝けり。嗚呼

我が皇朝の歴史は、我等が道義の經典なりと云ふべし。

(五) 國名の由来

(讀本七第三課)

設問法

設問の事項

我が國名、大八洲、瑞穂、細戈千足、やまとの由来を説明せよ

範 文

我が國、古は、大八洲の國といひ、又、瑞穂の國とも、細戈千足の國ともいひき。大八洲の國とは、伊弉諾伊弉冉二神の、國土を作り給ひし時、本州、筑紫、伊豫、淡路、隱岐、佐渡、壹岐、對島の八島、第一に成れるによりて名づけ、瑞穂の國とは、氣候溫和にして、美しき稻の、よく實るによりて名づけ、又、國人、勇武の氣象に富める

によりて、細戈千足の國ともいひしなり。神武天皇大和の國に、都を奠め給ひしより、やまとの名大に弘まりて、終に、全國を稱する號とはなれるなり。

(六) 改印届の認方

改印届

何郡市何町村何番地  
族籍

印鑑(印) 住所 何の誰  
何の誰

右は舊印遺失(或は缺損磨滅等)致し候に付印鑑の通り改印候  
開此の段御届け申し上げ候也

右

年月日

何の誰(印)

何町村長何の誰殿

(七) 徴兵適齡届の認方

徴兵適齡届

何府縣何郡市何町村何番地  
身分職業何誰何男(戸主)

何誰

何年何月何日生

右私私長男何誰儀本年何月滿二十歳に相成候開此段及御届候也

年月日

右戸主 何誰

何市區町村長何誰殿

(注意) 此届書は滿二十歳になるべき年一月三十一日  
まで其戸主より差出すべきものとす

(八) 勸業博覽會 (讀本七、第八課)

### 設問法

#### 設問の事項

勸業博覽會開設の目的及陣列の方法

當業者及需要者の利益

### 範文

勸業博覽會はその國の殖産を勵し、工業農業の改良發達をはかるがために、開設するものにして、各地の出品物を種類により、各部に分ちて、これを陣列し、其の優劣を競はしむ。故に、當業者は、之を比較して、我が短所を改め、他の長所を學ぶを得べく、

17 頁  
〜  
24 頁 欠

の樂園と稱せらる。首府を羅馬といふ。人口、殆二十八萬餘を有す。羅馬帝國の遺都にして、有名なる建造物多く、遺跡を弔ふもの、常に跡を絶たず。

### (一八) 病氣見舞の文

拜啓承はり候へば貴兄には近頃御風邪の氣味にて御就禱成され候由御容躰如何に御座候哉御出校これなき爲同友皆々心痛いたし一日も早く御全快御出校の事のみ祈り候此の品甚輕少ながら御見舞の印まで呈上仕候尙時候も不順に御座候へば折角御自愛成さるべる候早々

### (一九) 右返書

小生少しく風邪の故を以て欠席仕候處御念頭に掛けさせら

れ態々御見舞下され殊に鄭重なる御贈與を忝うし感謝の至に堪へず候差したる事にもこれなく候へば不日全快仕るべくと存候何卒諸君にも宜敷御傳へ下され度御禮かたぐ右御報申上候頓首

(二〇) 水素 (理科書四第二課)

指定法

指定の事項

性質

水素の製法

酸素との化合

範 文

水素は、色なく、臭みなき氣體にて、空氣より輕きこと、凡十四倍

半なり。又、水素は、自然ゆれども、他の燃焼を助くることなし。亞鉛の小片を、瓶中に入れ、稀硫酸を注げば、水素を生ず。曲管を以て、これを、水槽中に導き、水を充てたる玻璃筒を以て、其の管の端を掩へば、水素は、筒内に集まるなり。水素は、空氣中の酸素を化合して、燃焼すれば、水となるものなり。

(二一) 酸素 (理科書四第三課)

擬作法

前題水素に擬して作らしむ

範 文

酸素は、色なく、臭みなき氣體にて、空氣より重し。又、酸素は、物の燃焼をたすくれども、自然ゆることなし。鹽酸ポツマシユームと、酸化マンガンとを、瓶中に入れ、酒精燈を以て熱すれば、酸素

を生ず。曲管を以て、之を、水槽中に導き、水を充てたる玻璃筒を以て、其の管の端を掩へば、酸素は、筒内に集まるなり。薪炭等の燃ゆるは、其の含める炭素と、空氣中の酸素と化合して、炭酸を生ずるによる。

### (三三) 旅行先の兄に送る文

御出立後は如何に御座候哉御安泰の事と推察いたし候當地は御兩親を始め皆々無事に暮し居り候間御放念下され度候追々暑氣厳しく相成り御旅行の御難儀喚かしく御推量申し上げ候御兩親も御旅行先をのみ案じ居られ候間御用濟の上は一日も早く御歸宅相成り候様祈り上げ候

### (三四) 右返書

御書面披見致し候御兩親始め一同何の障りもこれなき由大

慶に存じ候仰せの通り俄に暑氣烈しく相成り途中随分困却致し候去りながら用務も大半相果し候に付兩三日中には歸宅致すべく候間御兩親へも御心配下さるまじき様御傳へ下され度候餘は歸宅の後に譲り候

### (三四) 和蘭 (諸本七第十七課外國地理)

#### 指定法

#### 指定の事項

和蘭の位置、地勢、氣候、生業

百年前の海上の霸王

#### 範 文

和蘭は、ライン河の下流、獨乙の西北に位せる小國にて、其の廣さは、我が九州より、稍大なるに過ぎず。土地、低平にして、概、海面

より卑く、北風常に吹きすさみて、甚愉快ならず。然れども、人民勤勉にして、産業に熱心なるが故に、この風を利用して、到る處に、風車を設け種々、人工を施して、其の天然の不利を補ひ、よく穀物を作り、半羊を收し、毛布、乾酪等を製して、諸國に輸出す。此の國は、百餘年前には、航海の業、甚盛大を極め、海外に、廣大の領地を有して、海上の霸王と呼ばれ、その首府アンスタルダムは、宇内商業の中心なりしが、今は、全く、英國と、其の地位を轉倒するに至れり。

(二五) 瑞西 (同前)

指定法

指定の事項

瑞西の位置、風景、首府、時計の名所

尙武の氣象及生業

範文

瑞西は、イン河の上流、歐羅巴高地の中央、山嶽最多の所に位す。水光山色の美、比、稀にして、夏季には、歐洲各國の遊客常に、跡を絶たず。首府を、ベルンといひ、人口、四万五千あり。ゼユネーブは、時計を以て、その名世に高く、諸國に輸出すること盛なり。此の國は、小なれども、風俗質素にして、尙武の氣象に富み、諸強國の間に介在して、曾て、凌辱を受けしことなし。又、この國は、地味脊せて、農業に適せず、鑛物の採掘すべきもの乏しといへども、水力を利用して、工業を營み、國運、頗隆盛なり。



## 第二學期

自九月  
至十二月

文題

(一) 會社 (讀本七第十九課)

設問法

設問の事項

會社とは如何

資本の供給者及執務者は如何

會社の類別及其の責任如何

範文

多人數資本を合して、事業を營むを、會社といふ。會社には、社員、又は、株主ありて、資本を供し、社長、取締役、監査役等ありて、營業

の事務を掌る。會社に、合名會社、合資會社、株式會社等の區別あり。合名會社は、又無限責任會社ともいひ、其の責任、資本金額にのみ止らずして、社員各自の身代にも及ぶなり。合資會社は、其の責任、各社員の出せし資本金額にのみ止る者にて有限責任なり。株式會社は、株券により、資本金額を募集するものにて、株券を有するものを、株主といふ。株主の責任は、株券の金額のみに止り、これまた、有限責任なり。

(三) 保險 (讀本七第二十課)

設問法

設問の事項

保險の目的及種類方法如何

範文

人の世にある、往々、不慮の災難に罹るを免れず。保険業は、之を救ふを以て、目的とするものにして、火災保険、海上保険、生命保険等、種々あり。火災保険、及海上保険は、保険申込者、其の會社と契約して、一定の期間に、保険料を仕拂へば、不慮の火災、又は、難船に罹れるとき、會社は、直に、契約の金額を、その罹災者、即保険申込者に支拂ふなり。又、生命保険は、保険申込者、其の會社に、定額の金を拂ひ込めば、死後に、會社は、保険の金額を、其の遺族に支拂ふなり。その他、保険には、種々あれど、その方法は、大抵同一なり。

### (三) 得意引合せの文

愈御壯健賀し奉り候然ればあまり唐突の事には御座候へ共今般友人何某儀御地にて何々商業相營み精々廉價に相働さ

申すべく候に付何卒貴家へも御引合せ吳候様申し出で候に付苦しからず思召候はゞ自今引立下され度偏に願上候委細は本人より更めて申し上ぐべく候へ共先は右御願ひ申上度此の如くに御座候

### (四) 右返書

御手紙拜誦仕り候此の度御親友誰様儀當地に御開店相成り候に就ては御申し越しの趣承知仕り候及ばすながら盡力仕るべく候尙小生知己の者へもそれ〴〵紹介致し置き候間追追用向も出來申すべく存じと候先は御回答まで斯くの如くに御座候拜復

### (五) 熱 (理科書第十四課)

### 指定法

### 指定の事項

熱の作用

潜熱及顯熱

熱線及燒點

### 範文

熱は、固體、液體、氣體を問はず、其の容積を膨脹せしめ、又、よく、固體をして、液體に、液體をして、氣體に變せしむ。固體の融解し、又は、液體の蒸發する際、其の物質中に、多量の熱を潜伏するを潜熱といふ。この潜熱は、氣體の液體に、液體の固體に變ずるときに際して、再顯はれ來るものなり。雨雪の降るとき、又は、氷の結ぶときにかへりて暖なるは、此の理あるに由る。又、熱の逆射する線を名附けて、熱線といひ、この熱線の、凹鏡により、反射して、

一點に集注する所を、燒點といふ。

### 應用題 光

(理科書四第十六課)

### (六) 電氣

(理科書四第十九課)

### 指定法

### 指定の事項

電氣の兩性

良導體不良導體

雷池

### 範文

電氣に、二性あり一を陰電氣といひ、一を陽電氣といふ。凡て、電氣は、同性は、相拒反し、異性は、相吸引して、中和せんとす。金屬、動物、大地、水、及濕りたる空氣の如きは、電氣を導き易き故に、良

導體といひ、硝子、樹脂、絹乾きたる空氣の如きは、之に反するを以て不良導體といふ。稀硫酸を入れたる陶器に、一方の缺けたる圓筒狀の亞鉛を浸し、次に硝酸を入れたる素燒の壺に、木炭の棍を浸せば、化學作用によりて、電氣を生ず。其の亞鉛に起るは、陰性にして、木炭に起るは陽性なり。之を電池といふ。

應用題 磁氣

(理科書第十九、二十課)

(七) 盜難見舞の文

拜啓昨夜は御留守を附込み盜賊忍び入り貴重品ののみ持去り候趣誠に悪むべき所業に御座候手懸り等も御座なく候や詮索上其の他御用もこれあり候はゞ及ぶべきたけ盡力仕るべく候間御様子伺上候敬白

(八) 盜難届の認方

盜難届

本月何日午後何時四周戸締りの上家族一同就寢仕候處今朝に至り裏口の戸の開放あるに氣付種々取調候處左記目錄の金品これなく全く窃盜忍入候ものと察せられ候間此段及御届候也

何府縣何郡市何町村何番地身分

年 月 日

何 誰

何警察署御中

(九) 燈臺 (請本七第二十二課)

自作法

(注意) 以下自作法ニヨル依テ自作法及範文ノ文字ヲ省

シ

範文

燈臺は、暗夜、航海者の目標として、緊要なるものなり。發光法には、種々ありて、白色、赤色の動かさるもの、白色と赤色と、交、廻轉して閃くもの、閃光、斷續して輝くもの等の區別あり。航海者は、其の發光の如何によりて、容易に、その何處なるかを辨知するを得るなり。其の構造の法も、亦一様ならず、海中に建てるもの、巖頭に築けるもの、海上に浮かべるもの等、なほ種々あり。而して、燈臺には、必、守衛の人ありて、日暮より、夜の明くる迄、燈光を看守し、決して職務を怠ることなし。

(二〇) 義捐金を贈る文

寸翰拜呈貴社益々御繁盛賀し奉り候。儲先頃の暴風にて何丸何海に於いて沈没し乗組員の慘狀見るに忍びざる由貴社新

聞にて承知仕候。依て同胞兄弟の同情見捨候に忍びず聊義捐金として金何圓也爲替にて遞送仕候。聞救助費中に御加入下され度此段願上候也早々不宣

(二一) 大日本史

水戸城主徳川光圀公は、我が國に、完全の歴史なきを憂へ、天下の名士を招き、大日本史を選みて、君臣の大義を明かにし、王室の尊ぶべきを示し、國體の萬國に秀せたる所以を説けり。本史は、明暦三年、始めて史館を開かれしより、六十年にして、本紀、列傳の稿、漸く成り、紀傳二百四十餘卷の稿、全く成りしは、公の薨ぜられしより、百年の後にあり。而して、刻本成功せしは、嘉永四年にして、明暦を距ること、殆、二百年に達せり。又公の家にては、此の如き歲月の間、年々、穀一萬石の用度を費されたるものな

れば、記事の精密にして、立論の正確なること、量り知ることを得べし。

(二二) 楠正成 (修身書第十課)

例ニヨリテ範文ヲ示サズ以下之ニ倣ヘ

(二三) 入營を賀する文

益御健勝賀奉り候過般徴兵検査御受け相成り候處現役御當籤にて愈明日御入營相成候由大慶此事に存候抑徴兵は國民第一の義務なるに世間厭忌候者往々これ有り慨歎の至に存じ奉り候賢兄の如く勇進なされ候てこそ日本男子の本領とひそかに感服罷在り候御入營の後とても一層御用心御勉強祈り奉り候輕少ながら酒一樽御祝の印迄に進呈仕り候間御笑留下さるべく候頓首

(二四) 右返書

拙者入營に付き御祝として酒一樽御惠み下され有り難く存じ奉り候且御懇切なる御教示に預り千萬忝く存じ奉り候愚鈍の性質には候へ共國民の義務のみは充分盡すべき覺悟にこれ有り候出發前支度萬端にて取込居候へば御答禮までかくの如くに御座候不乙

(二五) 愛國

世界廣しと雖も、我が國の如く、開闢以來、萬世一系の 天皇を戴き、皇統連綿として、天地と共に窮りなき國あるを見ず。皇室は、よく國民を愛撫し給ひて、君臣の關係、恰父子の如し。かくの如き、日出度國に生れたる國民は、此の上なき幸福にて、世界に比類あらざるなり。されば、我が國民たるものは、忠義を勵み

剛毅忍耐にして、善く、其の職業を務め、至誠忠實にして、善く其の品行を正し、以て、國運の伸暢を圖るべきなり。

(一六) 平田篤胤 (修身書一第十四課)

自作法

(一七) 古稀を祝する文

御親父様御龜齡己に耳順に達せられ候由誠に御健かなる御相貌羨望の至りに堪へず候來る何日は慶賀の御祝筵御開設遊ばされ候由にて迂生をも御寵招を辱うし有り難く存じ奉り候當日は是非共席末を汚し賀儀申上ぐべく存じ居り候へ共取敢へず使价を以て聊御祝の驗迄に織物一反呈上 仕候頓首

(一八) 右返書

父古稀の御祝として見事の御品御投與下され有り難く拜受仕候父儀舊來竹馬の友と申候ては只先生のみ之れ有り候間當日の宴席には是非御來臨下され度父も今日より鶴首罷在候拜復

(一九) 光陰を惜むの説

古語に曰く、光陰は箭の如く、一度去りて又歸らずと。されば、今日學はずして、明日ありと稱し、今年務めずして、來年ありと唱へ、碌々として、光陰を費し、敢て、學藝を修めざるが如きは、誤れるの甚しきものと云ふべし。春夏秋冬は、四時循環して、再來ると雖も、同じ年月は、再來らざるなり。されば、常に、日課を定め、時間を守り、孜孜として、學藝を勉め、決して、無益に光陰を費すべからず。大禹は、聖人なり。然れども、寸陰を惜めり。衆人に至りて

は、當さに、分陰を惜み、歲月を積み、以て、他日の大成を期すべきなり。

(二〇) 雪を賞するの記

朔風凜烈として、寒威、肌を裂き、六花霏々として、鶯毛飛び、鶴裳舞ふ。忽にして、四望一白、亦寸黒を見ず。枯木は、花咲き、茅屋は、玉樓に變ず。時に、友人某來るに會す。乃、爐を擁し、茗を煮て、以て雪を賞す。夫れ、雪は、風物蕭條の際、吾人に、一美觀を呈し、人目を喜はしめ、韻者は、吟詠の料となし、農夫は、豐年の寶と呼ぶ。世人の、月花と併賞する、亦宜ならずや。

(二一) 歲暮祝の文

愈今明日と切迫致し、御繁忙嘸かしと推察仕り候、扱本年中は何角御引立に預り候段、千萬忝く謝し奉り候、何卒相替らず御

見捨なき様御願申上候此の品輕少の至りに候へ共、歲暮祝儀の印まで進呈仕り候御笑留下さるべく候不宣

(二二) 右返書

御丁寧にも、歲暮祝として、結構なる品御惠み下され千萬有り難く謝し奉り候、手前こそ別段に御厚情を蒙り候段、謝する處に御座候、何れ當方より罷出御禮申し上ぐべく候へ共、取敢へず御挨拶まで斯の如くに御座候敬具

(二三) 郵便

音信を、遠隔の地に通じ、以て、彼我の情態を詳にするを得るものは、郵便なり。明治四年、東京、横濱、及、長崎の間に、始て設けられし以來、全国各地に、之を擴張し、現今に至りては、如何なる寒村僻地と雖も、郵便局の設あらざるはなく、其の便利なること、古



人の嘗て想像せざりし所なり。又明治二十五年より、小包郵便の制を施行せられしかば、益々便利を加ふるに至れり。文明の徳澤、豈大ならずや。

(二四) 電信

數千里の間に、一線を架し、電氣の作用によりて、一瞬間に、よく彼我の情況を通ずるものは、電信なり。明治二年八月、東京、横濱間に、始めて架設せられし以來、年月と共に、益々延長し、現今、線路の延長、一萬二千餘里に及び。又、海底電線は、壹岐、對馬より、朝鮮の釜山浦に至るもの、及、長崎より、支那の上海並に、露西亞の「ウラジおすとく」に至るもの、又、琉球を経て、臺灣に達するもの等を、主として、其の他、尙多し。

(二五) 小作證の認方

49 頁  
〜  
60 頁 欠

此賣代金何拾圓

右地所拙者所有の處前書代金を以て今般貴殿へ賣渡し代金正に受取り現地所引き渡し候處實正也然る上は右地所に關し親戚は勿論他より切候故障申し出で候者之れ無く候へ共萬一異論者これあり候節は拙者及保證人に於て屹度辨解致し貴殿へ聊御迷惑相掛け申す間敷候後日の爲賣渡證書此の如くに候也

何郡何(町村)何番地

年月日

賣主何の誰

何郡何町村何番地

保證人何の誰

何郡何町何の誰殿

(二七) 開校式の祝詞

學校は、人材を養成し、國家富強の基を造る園林なり。是寒郷僻邑と雖も、學校の設けある所以なり。去冬以來有志諸君が、資財を吞まず、勞苦を厭はず、日夜經營、寢食を忘れて畫策せられしを以て、茲に本校新築の功を竣へ、本日を下して開校式を舉げらる。誠に千載の美事にして、人民の幸福之に若くものなし。況斯の校の結構たる、宏壯堅牢にして、百般の器械完備し、地勢亦高燥して、閑雅、自然の風致、心目を喜ばしめ、以て、勤學の精神を養ふに足るをや。眞に智識を培養するの園林と云ふべきなり。われ等此の校に昇るもの、河水の滾々として晝夜を捨てざるが如く、孜々勉勵して、智を啓き、徳を成し、以て、本校の名聲を發揚せんことを期す、聊、所懷を述べて之を祝詞とす。

(二八) 卒業式の答辭

維時、明治何年何月何日、本校生徒、卒業證書授與の盛式を舉げらる。町村長、學務委員諸君の來臨を辱うし、校長何先生より親しく高等小學科卒業證書を拜受し、且、諸先生の懇篤なる訓諭に接す。生等の光榮、何物か、これに若んや。回顧すれば、生等、本校に入りてより、茲に四ヶ年、其の間、嚴正なる管理の下に、懇篤なる訓誨を蒙り、以て、漸く、今日あるに至れり。生等、本校を辭するの後は、各自の方向、相同じからず、高等の學術を修むるものもあらん。或は退きて、實業に従ふものもあらん。然りと雖も、常に、諸先生の訓辭を服し、帝國の良民たるを失はざると共に、校恩の萬一に報せんことを期す。聊、蕪辭を述べて、答辭とす。

(二九) 卒業を故郷に報ずる文

謹みて奉一書奉呈仕り候春暖の時節に候處如何御暮し遊はされ候や■ひ上げ候扱私此の度の試験は及落如何やと苦慮致し候處幸ひにも滞りなく卒業致し圖らずも首席に相成り誠に此の上なき面目に御座候是全く師の恩に依り候事とは存じ候へ共一つには日頃父上様御教訓の力と有り難く肝銘致し居り候來る何日盛大なる卒業式を擧げらるゝ筈に御座候間何れ遠からず歸郷致し久々にて尊顔を拜し縷々申し述べべく候先は右御鞆知まで斯の如くに御座候敬白

(三〇) 卒業後師に呈する文

謹■仕り候時下不順の候先生には益々御安康に渡せられ大慶至極に存じ奉り候陳者私事在學中は御懇篤なる御教訓を蒙り御蔭を以て某中學校に入致し候ても級中常に上位を

占め居り候事は全く御高恩の然らしむる處と朝夕感謝罷在り候其の後早速御様子御■ひ申上ぐべきの處彼れ是れ取り紛れ御踈遠に打ち過ぎ申わけこれなく何卒御宥恕成し下され度候尙今後とも相變らず御教誨を賜り度懇願の至りに御座候先は欠禮の御詫旁此くの如くに御座候頓首

高等  
小學 作文教授書四 終

明治三十四年一月一日印刷  
 明治三十四年一月四日發行



發行所  
 發行所  
 代表者  
 印刷所

高等小學作文教授書奧附

定價	
卷ノ一	金貳拾錢
卷ノ二	金貳拾錢
卷ノ三	金貳拾五錢
卷ノ四	金貳拾五錢
合計	金九拾錢

株式會社 國光社編輯所  
東京市京橋一區香地  
 株式會社 國光社  
東京市京橋一區香地  
 西澤之助  
東京市京橋一區香地  
 河本龜之助  
東京市京橋一區香地

214
4
240

